

The 3rd Japanese Society for Foot Care and Podiatric Medicine

第3回日本フットケア・足病医学会年次学術集会 ランチョンセミナー5

日時

2023年

2月12日(日) 12:20~13:20

会場

A会場 (なら100年会館 1F「大ホール」)

〒630-8121 奈良県奈良市三条宮前町7-1

座長

高山 かおる 先生 埼玉県済生会川口総合病院 皮膚科 主任部長

演者

加納 智美 先生 桑名市総合医療センター 看護部外来 フットケア指導士

実はとっても怖い爪白癬！

～ハイリスク患者への取り組み～

井倉 和紀 先生 東京女子医科大学 内科学講座 糖尿病・代謝内科学分野 助教

糖尿病患者における爪白癬診療

～糖尿病内科医の視点から～

整理券配布

配布場所：総合受付

配布時間：2月12日(日)7:30~10:00

※尚、整理券はセミナー開始後に無効となります

ランチョンセミナー5

実はとっても怖い爪白癬！

～ハイリスク患者への取り組み～

加納 智美 先生 桑名市総合医療センター 看護部外来 フットケア指導士

足病変の多くは、フットケアの介入により予防することができる。適切に足の血流状態を評価し、保湿、角質ケア、爪ケア、足白癬治療、靴やインソール等足を取り巻く環境の整備等で今まで多くの足を守ってきたと自負している。しかしながら爪白癬による爪変形は、いくら爪ケアを行っても時に予想以上に変形した状態で伸長する。爪甲下や爪周囲に傷を形成し、PAD(末梢動脈疾患)や糖尿病による易感染の状態では、下肢切断に至ってしまう場合がある。長年、爪白癬を患っていたケースがほとんどであり、爪は、白濁、肥厚、硬化又は脆弱など多様な様相を示しており、自覚症状に乏しいことで放置していたり、治療を自己中断された症例が散見される。

足病変のハイリスクである透析患者や糖尿病患者のフットケアの際に、爪白癬症例にはかなり難渋していたが、ネイリンを内服することで爪白癬が治癒し、爪変形が改善した症例を経験し、早期に爪白癬を治療しておくことが重要であることを再認識した。その症例からの考察を踏まえ報告する。

糖尿病患者における爪白癬診療

～糖尿病内科医の視点から～

井倉 和紀 先生 東京女子医科大学 内科学講座 糖尿病・代謝内科学分野 助教

糖尿病患者は爪白癬の発症リスクが高く、爪白癬は糖尿病性足潰瘍のリスク因子である。日本皮膚科学会ガイドラインにおいて、糖尿病性足潰瘍の発症や悪化を予防するために、爪白癬の治療を行うことが推奨されている。また爪の状態や治療効果を確認することが、患者自身による足の観察の機会となり、異常の早期発見にもつながるため、爪白癬に対する積極的な介入は重要である。しかし、正しい診断がされていなかったり、不適切な治療や治療中断例も多いため、爪白癬の治癒率は高くない。

爪白癬の治療は、基本的に内服薬の投与が推奨されているが、糖尿病患者は全身の合併症が多く、肝機能障害をはじめとした副作用発現頻度の上昇が危惧される。外用薬は局所的な副作用が主で投与しやすいが、継続率の低さにより治癒率は低く、漫然と処方継続されている症例も少なくない。したがって、爪白癬の病型や定期薬、アドヒアランスなど個々の患者が有する多くの背景因子を総合的に判断して、治療薬を選択する必要がある。また糖尿病患者は、爪の肥厚や変形などが多く、医療従事者による爪甲除去などのネイルケアを継続することで、治療に対するモチベーションの維持が期待できる。このような治療を継続してもらうための工夫や積極的な声かけと定期的な経過観察が、完全治癒を目指すには重要である。

本セミナーでは、当科フットケア外来における爪白癬の有病率、関連因子に関する報告と、糖尿病患者における爪白癬治療の問題点とその解決策について考察したい。